

1月10日 インドネシア、タニンバル諸島の地震

2023年1月10日02時47分（日本時間、以下同じ）にインドネシア、タニンバル諸島の深さ105kmでMw7.6の地震（Mwは気象庁によるモーメントマグニチュード）が発生した。この地震はユーラシアプレートに沈み込むインド・オーストラリアプレート内部で発生したと考えられる。発震機構（気象庁によるCMT解）は北北東-南南西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

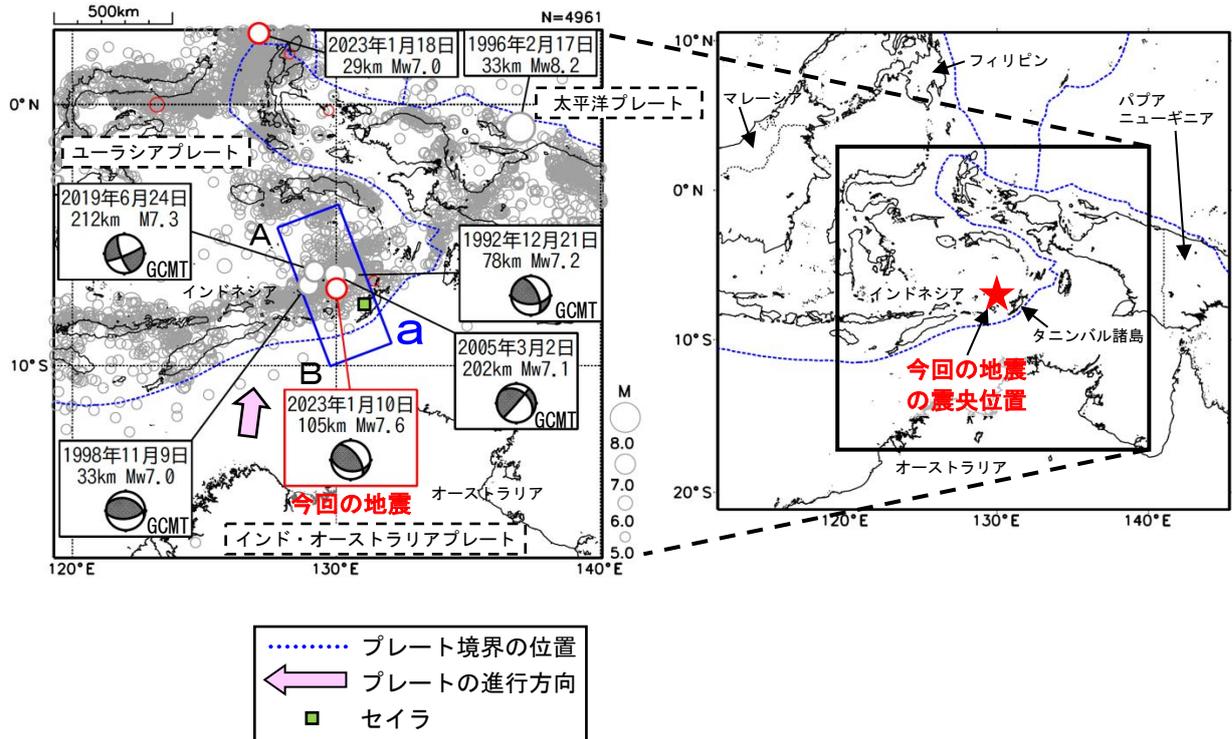
気象庁は、この地震に対して、同日03時30分に遠地地震に関する情報（津波の心配なし）を発表した。この地震により、インドネシア、タニンバル諸島のセイラで0.09mなどの津波を観測した。また、今回の地震により死者1人、負傷者1人などの被害が生じた。

1980年以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）ではM7.0以上の地震がまれに発生している。

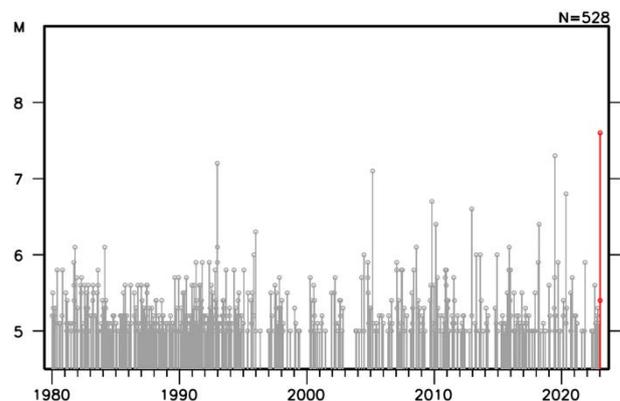
震央分布図

（1980年1月1日～2023年1月31日、深さ0～300km、 $M \geq 5.0$ ）

2023年1月の地震を赤色で表示

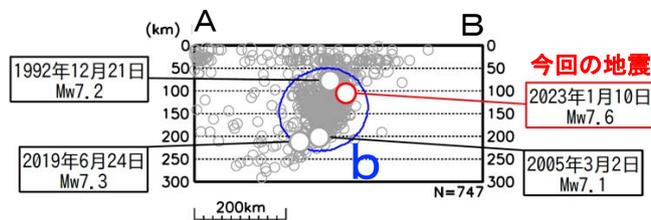


領域b内のM-T図



領域a内の断面図（A-B投影）

縦及び横を2倍に拡大して表示。



※震源要素は米国地質調査所（USGS）による（2023年2月6日現在）。ただし、吹き出しのある地震のうち、「GCMT」が付いた地震の発震機構とMw及び1996年2月17日の地震のMwはGlobal CMT、その他の地震は気象庁による。津波の高さは米国海洋大気庁（NOAA）による（2023年2月6日現在）。今回の地震の被害は、OCHA（UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs：国連人道問題調整事務所、2023年1月11日現在）による。プレート境界の位置と進行方向はBird（2003）*より引用。

*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.